

令和3年度授業改善推進プラン

	授業における課題や学力調査資料から見えた課題	授業改善のための具体策	成果と課題(年度末)
国語	意欲的に授業に参加し、積極的に挙手をする生徒も多く見受けられる。自分の意見を他者と共有することを好み、そこから新しい気付きも得られているように感じている。市の学力調査の結果は全体の正答率が高く、目標値や他の正答率を上回っていた。課題は観点別正答率の中で「読心能力」が目標値に対して差があまり開かなかったこと。中でも文学作品で登場人物の心情変化を捉える問題の正答率が低かったことが挙げられる。	文学作品を扱う際は、登場人物の心情変化に生徒自らが気付けるように場面ごとに状況を整理したり、心情表現の語句を全体で確認するなどの授業展開を行っていく。「読むこと」は読解ポイントを提示するとともに、導いた答えに対して根拠や理由を自分の言葉で説明できるように授業で繰り返し練習していきたい。自力解決の時間をもう少し長く確保し、生徒が自分の言葉でまとめる力を強化できるような努める。	【成果】登場人物の心情変化を探えて書き残し、根拠のある文章では根拠を探えることを意識した。その結果ただ答えを探るのではなく、その答えになる理由まで文章から導き出す生徒が増えた。 【課題】答えを探る中で一杯一杯生徒もいるため、問に対して着目すべき部分を見つめる力を身に付けさせる必要があると考えている。
社会	昨年に引き続き、社会科に対しての興味関心が高く、発言や意見交換も活発に行う生徒が多い。さらに、知識が身に付くことで、発展的な内容に興味を持つ生徒も増え、「なぜ」、「どうして」と考えることができる生徒が増えてきた。今後は、社会的事象を実際の生活に当てはめ、自らのこととして捉えたとともに、他者の意見を取り入れながら、より良い社会を構築するという視点をもたせていきたい。	急に難しい課題を提示すると考えることを辞めてしまう生徒が多いので、スモールステップで課題を解決したり意見を出しあったりする活動を取り入れていく。生徒がもつ「なぜ」「どうして」という疑問を授業に取り入れながら、分からないことは調べて、さらに知識を深めていくという経験を重ねていきたい。	自分の意見をもつこと、その意見を班員、クラスメイトと共有することでさらに高めることを目標に授業を行ってきた。班員で意見を出し合い、よりよい社会を築くための提案を考える中で、持続可能な社会という視点が生徒に付いてきたように思う。来年度も継続していきたい。
数学	調査からは、全体の正答率は平均を上回っているのですが今後も力が落ちないように演習を多くやらせていく。課題としては、比例・反比例に関する問題、資料の整理の累積度数に関する問題、文字の式からその式の内容を説明する問題などの正答率が平均を下回っているため、数式的な考え方や既習事項をつかって説明する力を身に付けさせていくようにする。	応用コースでは学習内容の定着を図るために、様々な見方や考え方を授業の中で取り上げ、学習したことを活用する力を養う。標準・基礎コースでは新しい単元に入る前に関連する内容の復習に当てる時間を設けるようにする。授業内容の見直しができるように、毎週末に授業での基本的な内容の宿題を出す。また、宿題をやらせることを通じて家庭学習の習慣を身に付けさせるようにする。	応用コースの生徒は、応用問題を解くときに学習した内容を考え方に組み入れて解くことができるようになりつつある。標準コースの生徒は、基本的な計算問題は、解けるようになった生徒が増えてきた。しかし、学習習慣が一部できていない生徒もいるので、継続して繰り返し学習をしていく習慣を身に付けさせて基礎学力の向上を図るようになっていく。
理科	実験・観察の作業を好み意欲的に取り組む生徒が多い。ヒントがあれば考えることができるが、ヒントがないと考察の文章を作成や応用問題を解くことが難しい生徒が多く、計算に関する取り組みは個人差が大きい。また、問題文の読み取りに苦手意識が高い生徒が多く、問題で聞いていることと解答のずれもしばしば見受けられる。	・問題文に慣れるために、こまめにワーク等の取り組みを入れ、同時に知識の定着も図る。 ・計算問題の取り組みについては、主体的・対話的な学習を行い、生徒自身の力で解く経験を積ませる。また、練習問題を何度も取り混ぜ、パターンを身に付けさせる。 ・視覚的に捉える方が得意な生徒が多いので、見えないものもモデルで表現したり、動画等を見せて仕組みを理解させるようにする。	こまめにワーク等を取り混ぜたことにより、問題文に慣れるようになってきている。知識の定着については、小テスト等も活用する必要がある。 ・計算問題の取り組みは、様々な部分に配慮しながら主体的・対話的な学習を通じて、生徒自身の力で解く経験を積ませることができた。定期考査等で見ても、パターンを身に付けている生徒が増えてきている。 ・視覚的に捉えるような動画を見せることも取り入れているが、もう少しそのような時間を取る必要性を感じている。ICTを活用する授業を今後も展開したい。
音楽	意欲的に取り組む生徒が多い。積極的に発言もしているが、発言する生徒が固定されてしまっている。鑑賞分野において感じたことを言葉で表現することが苦手な生徒もいる。また、楽典は基本の理解に個人差があるので、繰り返し学習が必要と思われる。	多くの単元を通してより多くの生徒が意見を出し合える機会を多くつくる。また、お互いを感じたことや伝えたいことを共有できるようにしていく。鑑賞においては、ワークシートを通して表現できるように指導していく。歌唱や器楽は限られた活動の中で、しっかりと身につけられるよう丁寧に指導を行う。	意欲的に取り組む生徒が増えた。楽典においては、理解力に個人差があるので、引き続き、視覚的にも訴えかけられる教材を準備して、繰り返し学習する必要がある。また、鑑賞においては、課題に向けて、考えを深められるよう今後も指導していく。
美術	・一斉の指示が通りづらい。 ・制作する上で時間の意識が低く計画通りに進まないことがある。 ・丁寧に制作することに苦手意識のある生徒が少なくない。 ・友達等の作品鑑賞に対して関心のある生徒が多い。	・生徒が興味・関心をもって授業に取り組めるような題材を設定していく。 ・作品制作に見通しがもてるように個に応じて声掛けをするなど、積極的にICTを活用し参考作品の提示のタイミングや見せ方の工夫を行う。 ・お互いの作品よいところに気付けるように単元毎にそれぞれの作品鑑賞の時間を設定する。	・作品制作への興味・関心はあるが単元の中で集中力を持続させることに課題がある。作品完成までの見通しをもつて計画的に制作を進められるよう個に応じて言葉かけを継続していく。作品鑑賞の時間を通じて美術の社会への関わり等に興味をもって取り組むことが出来ているので今後も計画的に鑑賞の時間を取り入れていく。
保健体育	実技分野に関しては、個人の目標を毎回たて、達成できるように取り組もうとする生徒が多い。できないものをできるようにするために、繰り返し取り組むことを意識して取り組める生徒と、取り組むことが続かない生徒がいる。苦手に思う生徒に関しては個々に声かけをし、課題解決に向けて取り組めるようにする。	運動技能レベルは人によって違うため、特に苦手意識をもっている人に関しては、コツややり方、楽しみ方を丁寧に繰り返し教え伝えながらできるようにしていく。「自分なりのコツ」を大切にさせていく。	単元が終わった時点で、学習プリントに書かれている感想の内容が、単元初めに比べると、「はじめはできなかったけど、できるようになってきて面白かった」という表現が多く、意識や感覚を変えられるところまで達成できたことが多かった。
技術・家庭	【技術】基本的な知識の中で理科で学ぶ基礎的な領域を学んでいます。とても大切な内容であるのでしっかりと覚える必要がある。 【家庭】授業に取り組む姿勢は意欲的である。自分が何を食べているのかわからない生徒も多く、授業内容と自分の食生活を関連づけられない生徒もいる。知識定着のために、授業内の振り返りや実践的な授業を充実させる必要がある。	【技術】断片的な知識はあるので一連の関係を理解するために視覚的な資料を基に時間をかけて取り組む。【家庭】動画を用いて視覚的に分かりやすく提示する機会を増やすとともに、自信の生活を振り返る時間を設ける。講義でた話を聞いて知識を得る授業になりがちな為、できるだけ実際に器具や物を用いた学習内容にする。学習内容の定着に大きく差が出てきてしまっているため、定期的小テストを実施し、大きな題材ごとで振り返る機会を設ける。	【技術】実習中での各班ごとに課題を取り組ませることで、理解を深めた。テストでの成果も感じられたので良かった点である。【家庭】自身の生活を振り返りを通して授業内容と関連づけ考えられる生徒が多くなった。今後も小テストや補助プリント問題を通して知識の定着をはかっていく。
外国語(英語)	発音練習や読みの練習などに積極的に取り組む生徒が多い。しかし、単語を書いたり英文を作成することになるとだいぶ苦戦している生徒が目立つ。苦手意識は持ちながらも頑張っており、家庭学習でも定着させる習慣を身に付けさせたい。	英単語や文法の小テストを定期的に行い、語彙、文作りの定着に努める。授業内でも、ペアワークやグループワークなどを積極的にを行い、表現能力の向上を目指す。自分の将来の夢などをテーマにスピーチテストを行い、人前で話す自信を付けさせたい。	・英単語テストを定期的に行うことができた。 ・繰り返し行うことで、単語力を高めることができた。スピーチテストを2回実施することができた。自分の考えや思いを英文でまとめ人前で堂々と発表することができた。 ・ICTを使用し、自分の考えや思いなど自由自在に書ける力を付けていきたい。
道徳	・まず、授業で取り組むテーマについてイメージさせから、教材を読み、中心発問について、自分の意見を他者に伝え、グループ討議し、クラス全体で様々な意見を出し合うスタイルが定着している。 ・発問に対する発表の場で、特定の生徒に偏ってしまっていることが今後の課題である。	・板書、ホワイトボード、付箋、心情円の活用やグループ形態(4人班)、ワークシート等を変化させてあらゆる角度から生徒の思考を深める。 ・発問に対して、自由に意見を発言しやすい状況を工夫する。	・ICTを活用し、中心発問について意見交換を行うことができた。普段発言しない生徒も、一生懸命意見を反映はさせることができた。 ・ICT活用にも慣れてきて、授業がパターン化しないように、ICTの取り入れ方を工夫していきたい。
総合的な学習の時間	今年度はSDGsを意識して総合的な学習の時間を組み立てている。1年時に実施できなかった校外学習を市内巡りという形で実施することができた。普段生活している清瀬市内をSDGsの視点をもって調べ、見学しICT機器を活用しまとめ発表することで自分達ができることやすべきことについて考えを深めることができた。集団行動を行う上でルールやマナーなどを意識して主体的に行動することが難しく課題である。	2学期以降は校外学習の行動範囲を都内に広げ実施する予定。校外学習のルール作りをはじめリーダーの育成を行っていく。また、車いす体験や高齢者体験を通して幅広い視野や考え方を身に付けさせたい。様々な体験活動と並行して自身の進路を見据え上級学校調べを行うことで幅広い視野や考え方を身に付け、社会に貢献しようとする人材育成を行っていく。	年間を通してSDGsを意識し校外学習、障害者理解等、社会に目を向けて学習を進めてきた。それぞれの活動を通して少しずつ社会に起きている出来事を自分の事として捉えられる生徒が出てきている。次年度は、SDGsの活動を学校全体に広げ「誰一人として取り残さない社会」づくりに貢献する生徒の育成を行っていく。